

琉球大学学術リポジトリ

好生要伝

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2021-09-08 キーワード (Ja): 所収コレクション：琉球大学附属図書館宮良殿内文庫, 宮良殿内 (みやらどうんち) キーワード (En): In Collection: The Miyara-Dounchi Collection (University of the Ryukyus Library) 作成者: 松茂氏當宗 (筆写) , 2021/9/8 16:08 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/48997

好生要傳

松齋

高宗

好生要傳

高宗
松林

紅

好生要傳

種子論

一
天地、氣相更て萬物化生。萬物、結而
人始生焉。此自然之理。思奉而
為事。是其道也。故人之生。則更擇以資養。
爰（いわ）く。生處（よしよし）たる。山に草木地に赤松
（あかまつ）。水に魚。水に鷺（さぎ）。
火（ひ）に薪（きん）。其要甚（おほ）き。若（わざ）く
則（ゆゑ）へ。既（すこし）て肥（ひじり）らる。沃（あふ）げて多（おほ）く赤松
（あかまつ）生（な）れ。事（こと）る。人（ひと）於（お）ず活（は）けたり。多（おほ）く香（か）氣（き）
（にお）き。時（とき）蘆（よし）衰（へり）て。能（のう）胎（たい）て。嫁（よめ）き事（こと）る。
稟（もと）實（じつ）り。予（よ）も。事（こと）て。不（ふ）意（い）徳（とく）懷（いだ）け。後（ご）終（しゆ）
法（ほう）済（さい）。秋（あき）の凋（ちやう）落（らく）。撫（なで）て。春（はる）の花（はな）榮（さか）れ
復（か）る。羅（ら）天（てん）蒼（そう）向（むか）ひ。年（とし）の春（はる）桃（とう）李（り）花（はな）

枯絶する正道缺く済應する事無く子宮虛冷
獨淮河の或血中伏熱孤陽
是生或は血症氣病也の所是皆女の
病入也名病入に海白是以治也
吾女潤養して病入愈す時則固當父之死
了事可く女由と曰ひて云々事
相國氏向右更嘗著て擇良事以う天地
清明時氣和樂之謂天時心之母信思活寧
而之胎之得之之生子體弱之病りて骨寒
信思活寧所了若愚昧川陰雨雷電
時天時の心也正解惑信思活寧高川て胎之
生子之母病りて毒氣也
天地之氣和平を貴し不熟取之時之陽元也

嘗時嘗たゞて此年一二國雪を拂、樹の下に
坐て然地園雪落とれどもその園大に遊む
天地と京山とれども力不足の御物主人の身に
あして其湖を用ひ事あるからんや
子に取るの要害難如血滿足にて病害
に身取し害情を消し女體を調て要つて
害の身とて或は枯清消於清枯冷玉事し殊
して玉清流て玉村或は夢迷類故或は渾濁
湖漫或は脣年雖或は陽寒ひ言ふく
或は陰虛熱多ひ弱じのハ清害の病ひゆう
多ひ喜憂を極むシトモ既に性命を絶滅
せらば女の方のもの、或は經の崩え後
或は二月に再發り、又月に一度ひうれ

太宰より時々海潮の漲潮の時廟殿よりも
人知る陽元の時消碑より人故の日暮をと
ておどりの事とお車が帝の廣く京町を水に
満たし是れ用ひて焉り有て見、自分に
善き恩を以て漏源く伝て是れを服と程を
方が教る陽地起、勢を壯にほどの事也
然に地主宣、此れは根は是れと木刺根に
毛地根せん流に房中く楽を助け却て是れ
裏の褐を折く源く、暁事史古人の向枝
子と方定む方る、室をあらじは是れ温光
根ありしは是れ涼、渭かくらみは是れ
深く済きは是れ江戸虚あるはれの是れ御
實ありしもの是れ源、其源不と去、

其足うち而ぞ御て陰陽和平をうそ
其程を一方也一方に拘らばも無から
一歸、脳度、造化自然、理之時也、六則
生り死、數、萬物、驚觀、自然、自生、
理也、二、死、命、品祖、向、生、中、小度、殺生
造度、模度、倒度、憂也、今少分想、愚
愚考、小度、洞觀、理度、
驚觀、之力、用、量、無、建、御、逆、度、模、度
倒度、母子、性命、の、から、不、重、高、足、恨、ん、
い、る、處、の、津、御、御、度、不、尚、度、未、も、考、も、渝、
在、事、の、不、お、事、事、
一、脳、度、文、行、不、お、事、事、
一、脳、度、文、行、不、お、事、事、

一
口只惱怒を除く 一 治安 一 京連 一
久の後治癒し惱怒り時、若寒了多通財
氣と冲く肉、射血出細血引(脾肺高
火)て支氣所寒下注時、血崩漏下清経
火度不收へ好子を生んて欲しき必失其
寢也者。其處(乳頭)等ハ則性桂
和以生子者或川(東屋の角)一是
所謂如意祥也。一门多少之活潑に
あひて中一之事也。
二言序事以禁忌風 胎を保延て純之氣
中一之要也。試に見よ高祖曰「法を守れば
更合致はば」(ト)て高祖曰「不如魚水之志
胎を生の後、寝所は異川一地を總て身

卷之六
治法固而腰僻り
二月後中經而腰肥大よりて且灌常
解り腰中息立度て治運り易
胎人少身此方安逸に毛血
元性一若安逸則子母不时、京血
経引也、筋骨柔弱則陰事也
胎人右腰に移着也右也之
左右便利則深之则革り易
胎人平日心神收聚、性急和平、有之之治
人也、包之也生子必聰明也
胎人腹痛六脉

心清く虚時、腹脹く生ず病かく。一
虚余に得有。着房事正候時必寒
虛く火旺り。一、小兒經度夜半為候中
ニ生冷を戒し。生冷の極を以て或大
過寒或く或房事正候にて火旺を渴
海て生冷の多、熱て坐りて洗に
脇骨に傷。内流病害是も起り病ひ財
多耗減而消耗。一日の渴き消甚。只渴
懸て或る房事正候て生冷の極を以て或大
過寒時小兒經度又經度の程過甚とか
四六度温に候し。一、脳外於之感冒。熱
傷寒未滅の病で除之難熱更解。一、小兒
有衣被肩と紀居候食寒温を渴む潤和せ
て服余毒を入身

一、宜發神之毒。一、施神之毒。一、
中一物法焉是也。一、授時則宜。一、渴
渴先れ。一、年ハ身神。一、心疾。渴を以て則
血を以て充ち清濁萬を以て移す。一、則
是之以安神。則是胎教の本精也。一、祖宗の
重々経き嘗物の故ひて承け譽惡を和
川の冬無期。一、參り所は嚴。一、神之毒。

心清く虚時、腹脹く生ず病かく。一
虚余に得有。着房事正候時必寒
虛く火旺り。一、小兒經度夜半為候中
ニ生冷を戒し。生冷の極を以て或大
過寒或く或房事正候にて火旺を渴
海て生冷の多、熱て坐りて洗に
脇骨に傷。内流病害是も起り病ひ財
多耗減而消耗。一日の渴き消甚。只渴
懸て或る房事正候て生冷の極を以て或大
過寒時小兒經度又經度の程過甚とか
四六度温に候し。一、脳外於之感冒。熱
傷寒未滅の病で除之難熱更解。一、小兒
有衣被肩と紀居候食寒温を渴む潤和せ
て服余毒を入身

古ノ先人之言の真道ノ則總く
角也ノ道ノ則善也總明可也

卷之二

卷之三

卷之三

一歸人懷胎血以爲毒人宜以少謹省平日行動
之血不宜流也一也而着多發育多發
者毒一歸人懷胎經一也大平日方若去其
中氣之毒則可以還元力方根、性也一
懷胎之時勿食肥肉一胎肥白肉也益瘦
一表沈擾、貧酸一歸人故焉經經
一胎中房事也慎之有者忌之犯一之角
因胎動而小挫一病久之角以母體數多而與
之生子而渴有者令而之其具胎毒

卷之六

海く癒瘉出づ時紙巻内ノ治一是
省父母の欲の致不い
生産に理化取て之の或福也亦在而
也トハ或種痘之則かと皆生後給を忌
時之疫痘之能と今重候
小婦初經交者いまと云うて腰曲下伸
んが生じて車止め又帰人より子化生にて
血瘀虛換の者或六分神虛弱りて、末血
不足の者之疫痘之腰正也且虛換虛
弱の者焉る京外調養入焉れ
痘瘡之時極に苦艶之而痘之辨を賤痛之
力地固にて生を漏すし此が之疫痘事六
疫痘之威力を用ひ事甚當て既に疫痘

内に身うて弱い病済て殺す事多
湯地酒一升を助く

シア

一治七八角あれば忽ち口言ひの子便と名付
一營退車かへ平復せば又以本云し車
一治七八角あれば面白同生き腫りのふらんと
筋骨渾る事か着小腹せうるゑ鍵奥
腰を赤小豆を泡ゆく方奥腰に入糞して
腰毛

一一一治人殺生怪異の者を與て食か
一治一切体治と風か

腰好物

梳肚スミナカニ 胡麻油ゴマニ 占卜占トオ 77
海鳥カイハ 薤草クサ 紅皮カヤイム 銅葉レニコシ 111
家鴨カニハ 山藥サンヨウ 蓼根ヒシニチ 蓼肉ヒシニチ
芡實ケンゼツ 白菜シロナ 菠蘿ボロニヤ 莧菜ヒイナ

筍タケ 共に之を用生薑シナモン 111

胎人禁物

犬蟹イヌガニ 羊ヒツジ 牛馬ウマ 猪ブタ

兔ウサギ 兔ウサギ

蟹

生

夷

換脂墨

芥末

至醬共蘿同食共に脂を漬也

蘿生之薑

之醤矣

鴨子

鴨子

炙燒物熟に脂也

菌子

生之風也

芥次其脂矣

胡椒

葱蒜共に

子薑

生之指也

魚肉共鷄子同食解善寒陰

鷄肉共鷄子同食

生之去火

祐臘生冷熟類化小之

理灌之水之澤

一
帰人生度の進化自知、理焉治し所謂凡熟是
帶底氣而歸也、亦云之平度而重高是事也
必警之數山底からて世内難處也人、得處
道也、不可不之禁忌也祀、或曰朝して席て食
生を禮、力也固り事早く、（模生蓮生小
有の草木の核、其後生之）離の玉も物々と
自殺首の准も是を等へ時も未だあつて、
生の時也らべて、活の體で離せば當も離
離て、長ともぞ助け妻子を離て離を出止と
因に漫と傷し、やひ此滅害矣大源、（有得公
事一也）

一度罹病かと引く事の多、（安靜川、因公区）

人中 床内 入浴勿久浴勿久极苦 然汗出
内也 沐 善沐浴能促进血液循环耳也身也而
浴之又洗脚后事小少也 床内に身すらりと
營き數て満事も一候む
庄爰用固公止らるる安靜也 云々と風かく
庄母也 一 痘に服 しの事 所要也
一 床濯 内吹風以通之事 所要也 此时心中憂い
數い股中 痘痛甚 精神疲倦全失 健康
潤氣也 一 床多家勝也 中寒かとは 滋潤
便ちの やく小浴化之の其人也からて
庄母既蒙澡焉 乞乞乞乞乞乞乞乞乞乞
庄母則床濯 溼無有時則床濯 一 悪氣也
同絕毛事也

一 床母身を曲り眼孔を塞からず 才を血の内に治
通之事不外り 一 次りかく動事已後没漫
程程の其不動にて死胎ニテ恐るま憂ふ
程母才が坐る時動事已後かく此時程母才
才を坐 一 女神レセレ一列也 一 本作也
庄生程母才不外事も怪語也營恍惚而良女
精神無自知 人生と出来ん程母才 一 坐ノ被事
所要也

痘濯之法之要

第一眠 毛所要也 心神も潤養し 体力も充一
情も周りて 毛で眼も充實若眼も事も不能財も
身も死或ひに助け也 一 痘也歩く痛や緩む
財も充実し眼も 一 痘也歩く痛や緩む

宜安作^{タマシ}眼^{タマ}——腰中寛解^{タマシ}の時^ハ活^{タマシ}通^{タマシ}易^{タマシ}
因母眼^{タマシ}是^{タマシ}也^{タマシ}又眼^{タマシ}肉^{タマシ}是^{タマシ}也^{タマシ}事^{タマシ}也^{タマシ}
一 第二痛^{タマシ}也^{タマシ}悬^{タマシ}脣^{タマシ}所^{タマシ}要^{タマシ}か^{タマシ}或^{タマシ}痛^{タマシ}或^{タマシ}止^{タマシ}或^{タマシ}痛^{タマシ}
緩^{タマシ}如^{タマシ}如^{タマシ}柔^{タマシ}胎^{タマシ}之^{タマシ}若^{タマシ}而^{タマシ}度^{タマシ}以^{タマシ}之^{タマシ}腰痛^{タマシ}而^{タマシ}
腰正痛^{タマシ}去^{タマシ}也^{タマシ}而^{タマシ}緩^{タマシ}如^{タマシ}如^{タマシ}腰痛^{タマシ}腰^{タマシ}的^{タマシ}痛^{タマシ}去^{タマシ}
而^{タマシ}緩^{タマシ}如^{タマシ}如^{タマシ}緩^{タマシ}如^{タマシ}如^{タマシ}腰痛^{タマシ}腰^{タマシ}的^{タマシ}痛^{タマシ}去^{タマシ}
力^{タマシ}用^{タマシ}害^{タマシ}也^{タマシ}も^{タマシ}事^{タマシ}事^{タマシ}腰^{タマシ}腰^{タマシ}痛^{タマシ}腰^{タマシ}痛^{タマシ}
眼^{タマシ}中^{タマシ}火^{タマシ}の^{タマシ}光^{タマシ}也^{タマシ}見^{タマシ}る^{タマシ}如^{タマシ}如^{タマシ}時^ハ是^{タマシ}減^{タマシ}而^{タマシ}度^{タマシ}也^{タマシ}此^{タマシ}时^ハ
力^{タマシ}用^{タマシ}正^{タマシ}方^{タマシ}也^{タマシ}而^{タマシ}少^{タマシ}度^{タマシ}也^{タマシ}
附或^{タマシ}痛^{タマシ}也^{タマシ}患^{タマシ}事^{タマシ}多^{タマシ}也^{タマシ}而^{タマシ}少^{タマシ}事^{タマシ}
往^{タマシ}往^{タマシ}也^{タマシ}物^{タマシ}也^{タマシ}自古^{タマシ}而^{タマシ}今^{タマシ}也^{タマシ}強^{タマシ}活^{タマシ}也^{タマシ}
強^{タマシ}活^{タマシ}也^{タマシ}而^{タマシ}強^{タマシ}活^{タマシ}也^{タマシ}而^{タマシ}痛^{タマシ}也^{タマシ}而^{タマシ}患^{タマシ}也^{タマシ}
患^{タマシ}也^{タマシ}事^{タマシ}正^{タマシ}從^{タマシ}時^ハ也^{タマシ}と^{タマシ}自^{タマシ}治^{タマシ}也^{タマシ}此^{タマシ}時^ハ

分明也^{タマシ}難^{タマシ}か^{タマシ}

一 第三緩^{タマシ}也^{タマシ}緩^{タマシ}に^{タマシ}隙^{タマシ}之^{タマシ}緩^{タマシ}所^{タマシ}要^{タマシ}也^{タマシ}若^{タマシ}而^{タマシ}不^{タマシ}緩^{タマシ}
用^{タマシ}事^{タマシ}早^{タマシ}也^{タマシ}而^{タマシ}不^{タマシ}事^{タマシ}也^{タマシ}緩^{タマシ}生^{タマシ}理^{タマシ}生^{タマシ}理^{タマシ}生^{タマシ}理^{タマシ}也^{タマシ}緩^{タマシ}
時^ハ是^{タマシ}也^{タマシ}小兒^{タマシ}自^{タマシ}道^{タマシ}也^{タマシ}緩^{タマシ}生^{タマシ}度^{タマシ}也^{タマシ}緩^{タマシ}也^{タマシ}緩^{タマシ}
也^{タマシ}而^{タマシ}用^{タマシ}小兒^{タマシ}也^{タマシ}是^{タマシ}能^{タマシ}熱^{タマシ}也^{タマシ}帶^{タマシ}薄^{タマシ}冰^{タマシ}也^{タマシ}而^{タマシ}
深^{タマシ}而^{タマシ}自^{タマシ}涼^{タマシ}也^{タマシ}而^{タマシ}熱^{タマシ}也^{タマシ}而^{タマシ}冰^{タマシ}也^{タマシ}而^{タマシ}熱^{タマシ}也^{タマシ}而^{タマシ}
也^{タマシ}而^{タマシ}緩^{タマシ}也^{タマシ}而^{タマシ}又^{タマシ}冷^{タマシ}也^{タマシ}而^{タマシ}緩^{タマシ}也^{タマシ}而^{タマシ}緩^{タマシ}也^{タマシ}

附

一 或^{タマシ}人^{タマシ}大^{タマシ}便^{タマシ}之^{タマシ}也^{タマシ}用^{タマシ}——^{タマシ}生^{タマシ}理^{タマシ}也^{タマシ}用^{タマシ}矣^{タマシ}
若^{タマシ}曰^{タマシ}大^{タマシ}便^{タマシ}不^{タマシ}極^{タマシ}少^{タマシ}而^{タマシ}動^{タマシ}也^{タマシ}——^{タマシ}故^{タマシ}不^{タマシ}用^{タマシ}——^{タマシ}
小兒^{タマシ}自^{タマシ}分^{タマシ}能^{タマシ}運^{タマシ}也^{タマシ}却^{タマシ}重^{タマシ}也^{タマシ}用^{タマシ}事^{タマシ}也^{タマシ}
小兒^{タマシ}緩^{タマシ}中^ハ立^{タマシ}而^{タマシ}緩^{タマシ}——^{タマシ}方^{タマシ}也^{タマシ}將^{タマシ}而^{タマシ}緩^{タマシ}之^{タマシ}
而^{タマシ}緩^{タマシ}而^{タマシ}向^{タマシ}之^{タマシ}是^{タマシ}主^{タマシ}也^{タマシ}——^{タマシ}仰^{タマシ}而^{タマシ}是^{タマシ}也^{タマシ}

出り着小児^(子)は力^(アリ)將^(シカ)せう^(シカ)財^(カニ)力^(アリ)と用^(ス)
或^(ハ)是先^(シテ)或^(ハ)是出^(シテ)或^(ハ)一方^(カタ)に^(カタ)事^(カタ)告^(ガフ)
事^(カタ)告^(ガフ)是當財^(シカ)力^(アリ)と用^(ス)也^(ハ)

一或人向力^(アリ)の時に用^(ス)上^(アマ)身^(シム)也^(ハ)名同小児^(シテ)の
内^(ナリ)財^(カニ)育^(ヒカシ)分^(ハセ)胸^(マツキ)胸中^(マツキノミ)漏^(ル)腰^(マツキ)後^(ハシ)
筋痛^(シントウ)大小便^(マツシタケ)共^(ハシ)躍^(ハシ)眼中^(マツキノミ)令^(シカシ)乳^(マツキ)因^(ク)
渴^(シカシ)此時^(シテ)也^(ハ)

一或^(ハ)力^(アリ)を用^(ス)事^(シテ)早^(アリ)き^(シテ)時^(シテ)深^(シカシ)着^(シカシ)力を用^(ス)事^(シテ)
透^(シカシ)く^(シカシ)て^(シカシ)も深^(シカシ)ら^(シカシ)る^(シカシ)也^(ハ)若^(シテ)日^(シテ)深^(シカシ)事^(シテ)也^(ハ)

一或^(ハ)而^(シテ)一度^(シテ)痛^(シテ)て^(シテ)則^(シテ)生^(シテ)き^(シテ)力^(アリ)を用^(ス)眼^(マツキ)也^(ハ)之^(シテ)の
是^(シテ)は^(シテ)故^(シテ)を^(シテ)若^(シテ)日^(シテ)是^(シテ)自^(シテ)然^(シテ)也^(ハ)而^(シテ)又^(シテ)是^(シテ)之^(シテ)の
事^(シテ)也^(ハ)胎^(マツキ)末^(シテ)既^(シテ)に^(シテ)生^(シテ)き^(シテ)全^(シテ)身^(シム)財^(カニ)也^(ハ)

タカラツ

更^(タカラツ)育^(ヒカシ)自^(シテ)然^(シテ)也^(ハ)是^(シテ)胎^(マツキ)す^(シテ)全^(シテ)く
見^(シカシ)よ^(シカシ)中^(シカシ)海^(シカシ)又^(シカシ)廁^(マツキヤ)根^(シカシ)少^(シカシ)也^(シカシ)是^(シテ)也^(ハ)誰^(シカシ)
此^(シテ)而^(シテ)自^(シテ)然^(シテ)也^(ハ)是^(シテ)時^(シテ)是^(シテ)而^(シテ)留^(シカシ)可^(シカシ)也^(ハ)

更^(タカラツ)安^(シカシ)沈^(シカシ)標^(シカシ)也^(ハ)

十種^(シカシ)之^(シカシ)滿^(シカシ)

一^(シカシ)只^(シカシ)模^(シカシ)生^(シカシ)也^(ハ)先^(シカシ)出^(シカシ)也^(シカシ)是^(シテ)胎^(マツキ)す^(シテ)全^(シテ)く
風^(シカシ)運^(シカシ)也^(シカシ)力^(アリ)を用^(ス)事^(シテ)早^(アリ)き^(シテ)而^(シテ)此^(シテ)初^(シテ)生^(シカシ)也^(ハ)之^(シテ)の^(シテ)
你^(シカシ)武^(シカシ)也^(シカシ)總^(シカシ)婆^(シカシ)也^(シカシ)而^(シテ)是^(シテ)少^(シカシ)緩^(シカシ)也^(シカシ)兜^(シカシ)の^(シテ)
推^(シカシ)へ^(シカシ)而^(シテ)身^(シム)方^(シカシ)少^(シカシ)也^(シカシ)而^(シテ)自^(シテ)然^(シテ)也^(ハ)

二^(シカシ)六^(シカシ)倒^(シカシ)也^(シカシ)足^(シカシ)先^(シカシ)出^(シカシ)也^(シカシ)是^(シテ)胎^(マツキ)す^(シテ)全^(シテ)く
風^(シカシ)運^(シカシ)也^(シカシ)力^(アリ)を用^(ス)事^(シテ)早^(アリ)き^(シテ)而^(シテ)此^(シテ)確^(シカシ)法^(シカシ)有^(シカシ)也^(ハ)
也^(シカシ)赤^(シカシ)赤^(シカシ)也^(シカシ)脚^(シカシ)運^(シカシ)也^(シカシ)而^(シテ)端^(シカシ)て^(シカシ)生^(シカシ)也^(ハ)

胎^(マツキ)運^(シカシ)事^(シカシ)か^(シカシ)

附

一 ひき出で極度もしくは度毎作され候に
推拿車 無出事少々もはき硬て入
かく傷事より首裡の力を用ひ事早く
してひき出で度入度出で安へるが如
様で此のひき寝に著て胡麻油を此の出
ひし寝後は推へて本體自平視り母子
共に全愈 俗の性收らぬものも此のひきを半
備すとて入易 ひき出でをめし方法を

用之車

一 或の横坐側坐にて力を用ひ故也
或ひて正用にて難能もあらざり是れ
故ニ也若何母方神弱く京血虛核胎農

足寒或之熱病後熱宜胎ヒ湯ヒ或之後
序事ヒ不快寒火胎ヒ湯ヒ或之辛物
物核ヒ須ヒゆく食ヒ熱毒胎ヒ湯ヒ或之
辛痛 胎ヒ傷ヒハジ省ヒ段程從善
京ヒ往也

一 二只偏頭三日胎既遂ヒ又丸つに至らるる
内に力を用ひ額の前ヒ頭部ヒ毛三度也ヒ
你きかくら被波リテ緩うり而歛也其度
平度もまた穀道ヒ痛毎度ヒのびて温ヒ穀道
の外より押重也則平度也
一 四只碍波ヒ胎運ヒ附ヒ用事早くとく 胎常
肩に附ヒ頸既に漏ヒテ生事足根もあらざり
你きかくら被波リテ緩ヒ肩ヒ鍵ヒ脉常ヒ

解一先立平瘧也

一
古ハ瘧瘧也。瘧也。ともに附着。而被瘧て久矣。
瘧一生瘧に掛て生る事正徳。あらう。草を
瘧母瘧の上に置け。而母瘧にて。主て其常と
さう例へ是を曲て瘧も多利してせり。先立瘧の歸
家。平瘧也。

一
六只營陽。瘦て生寒。長に腸勞。えり。不食。食
宜血虛。扶則。瘦。灌。筋力。用。事。高。多。故
此辰。右。腸。湯。を。瘦。然。に。納。血。重。胎。衣。の。ひ。を。活。
瘦。無。作。き。引。之。補。脈。也。に。胡。麻。油。を。浴。り。瘦。母
氣。之。門。と。け。財。緩。に。送。入。矣。又。之。瘦。減。指。檢。
擦。胡。麻。油。し。瘦。火。を。除。吸。消。其。經。也。瘦。母
の。龜。し。而。如。也。則。收。食。す。草。麻。子。早。陰。

瘧

ツギタラカ

二三九キ

搗。綱。一。左。身。の。頭。項。に。渴。る。年。腸。收。八。早。陰

右。草。麻。子。六。拭。り。去。る。

一
七。つ。凍。裡。ニ。テ。叢。草。ニ。附。夜。絶。蕪。テ。安。ヒ。ヒ。交。血
冷。之。瘦。之。而。生。る。事。正。徳。お。ひ。是。み。く。脣。浸
差。を。瘦。母。内。下。ゆ。中。ヒ。続。き。緩。り。て。紫。瘡。更
湯。忍。瘦。つ。り。也。一。洗。一。セ。リ。ム

一
八。分。根。瘦。之。根。見。附。根。之。床。通。而。頭。痛。而
赤。く。解。り。ぬ。立。して。生。る。事。正。徳。あ。ら。う
か。形。冷。水。で。瘦。緩。之。瘦。麻。子。之。涼。之。も。多
も。夙。也。而。而。而。而。

一
九。四。驚。瘧。也。初。徳。又。驚。而。瘦。瘧。瘦。少。朝。に
驚。忌。の。京。結。て。風。引。て。生。る。事。正。徳。あ。ら。う
是。若。急。望。以。烈。炎。紫。瘡。瘦。之。瘦。麻。子。之。根。汗。少。高

黄道周

若商歸日有金匱之紫綫

一脉也

四月

一十八傷度之次次之例也。胎也動。腰腹痛。而
腹脹。是安度。亦用。一陳氏。妻。自。日。教。體。而。確。危。事。急。也。勞。充。
引。見。強。堅。勞。之。立。而。頭。度。之。而。多。之。也。生。之。理。
生。事。正。能。勞。固。而。強。頭。度。之。而。多。之。也。生。之。理。
か。一。財。主。之。而。主。之。而。則。安。胎。の。系。に。用。之。安。个。
喉。次。は。母。と。明。日。平。度。一。母。子。共。之。主。急。是。
力。を。用。之。事。財。に。以。之。不。て。活。の。死。を。准。也。宣。首。
度。つ。而。深。て。生。と。ね。の。り。う。ん。

附

一。或。而。強。源。用。之。而。之。而。各。而。此。革。八。年。

老。て。み。年。而。弱。る。や。用。之。一。而。大。手。分。
至。膝。に。而。道。理。が。而。通。達。で。正。辨。度。で。
確。一。力。が。用。い。或。腰。で。擦。之。腰。で。擦。り。或。そ。
ひ。を。度。の。に。入。て。探。探。り。安。釋。し。せ。と。て。大。事。を。
誤。り。う。の。首。と。へ。腔。と。发。其。玄。氣。を。伝。一。
往。と。而。か。り。れ。

一。漫。氏。妻。壯。年。中。て。京。血。醫。か。り。而。每。八。角。中。て。
瘦。と。而。每。日。中。瘦。と。生。多。寒。主。風。而。醫。う。回。手。
國。法。う。ひ。後。強。確。而。而。手。と。一。明年。又。八。角。
中。て。瘦。と。確。一。而。主。之。而。生。急。事。急。也。及。勞。
云。禁。之。四。の。あ。一。魚。之。醫。之。清。一。是。而。目。せ。し。
強。確。而。而。手。と。子。兜。の。頭。度。つ。に。而。出。事。と。
且。半。勞。向。是。而。復。し。じ。強。醫。之。並。あ。ら。ん。

安胎の事と因る如く妊娠一百日で身から安胎全ちに口角を産十二月引て嘔子を生むる前と度徳治に経り産む程せしもか後此母は幸壯年故而て性平で保事と竟

附胎七八月妊娠之を度共に便り或母腹中隆ゆる或起居卧附にて胎裏安時大に動く痛事いわゆる安胎ニ至り既足一或之改め痛じ去り是時胎前隆事也即胎也十月滿月にて度する事多く遂に胎を写せ六月又十二三月引て平度する事も亦有す胎月數誤り事無く之月と思ひ然胎を发生せ罐毛胞からく又五月生むるに當る恐爲難事也而多苦痛を患ひ其祥

胎之忌事と云ふ事は時時耳自ら平健と一胎次先破て胎死する事あり甚故二つ以上は益虛弱にて胎死亦く胎運の時傷を免けべつ胎死する事又其力也用事早くて傷を免れ胎死傷を免れ事の外水流經活潤て胎健も康む胎を一又法葱濃煎湯を飲むて血脈の通ひ汗疹の腫れ毛の所因即一言の平瘡せしも一量暈絕する事無く急に生半身半死に成る以て和之至の程に丸白鼻内に入出醒め也安胎の事と云ふ事は元來虚弱或胎死の謂也と先て京師華連より奉正強ゆ也本之祐參湯若原と號し一又其效能也之の内外に留

一 死胎正坐或胎位不正而流產病革の薬血
水にて往來せらるる事無經驗有り

附或曰胎位不正取之苦留其用事半功倍
かく既生の時て當てて父受者あつて不可と云
安く胎位隨りゆき也其言之を正行法也應
此時胎位をひそぐ事有り而胎位不正
胎位不正の發先を咽中に入姪はせん
ありりあり

一 黒豆子合サ砂糖匙二合水一升煎至二
去二二度を後止方
一 草薢正旱苓桂圓方 痘母の右足裏に
かく胎位不正旱苓桂圓を煎す若拭之を
事通氣附腸之又皆火泄即之而止

一 産子の小便は清白号令入河こそ更續毛一毛
流白耳膏合之を重便引爲可也

一

古草薢の裏出に於て腰を温めんとす。

一 胎位不正口、腹母若ニモ字を包みて小兒
脉之方を參り且敗血胎位の内へ多胎位續毛一毛
腰を温て之に冲溼之病痛當也。先に引着
布を敷法を用て之取て之の要稱ゆて號之全脉
魚に脉常を切り生る血脉胎位の中に又入極に染毛
其利深がく解被瘡の為品足根に繫之全脉
在て之を教日川て萎縮してり。し。脉常腰中へ
歸入之治か

附育母京血疲弱にて口不腫痛事あきらめの

獨參湯益氣固本血而補之無

此一筆跡與書風相似，皆是極力

江中流山々の、母子共死を因乳脇、冷溼
腫痛感嘔逆感微発上に沖少也好脇
及同事行

總務課の事務
は、主として、
支那の用意に
付ける事務
である。

人參 三錢人參

蠶
明松附

卷之三

故平復之早速，蓋以腹內之胸水也。抱之
而無害，自可取以治脉也。搏之而脹，其也

身に呪迷惑睡せし血氣へ末血塞て眩暈
と聲に氣せみて覺る風りせし血氣
毎日二度の下駄下まく左下右血せりを
洞和脚く女先若も血絶右血せりとも二回目
後も血白少く完焉ひあら
一平穏子連男女も合せ少く血氣
始に脚の事より脚く女子を生むの後
男子を生じて歎ひて、立分り生むといふ事
繰けて女子生む事ありて病にて立分り生むといふ事
然嘗始元治之の初冬月若候けて女子を生む
その年高き頃より少く歎息を有すと竟年暮

筋筋と血筋と用て療治 本心筋と一若筋
精神耗時獨參湯羊角熱目子角重慶若筋
血中りて風止の胸面舌と牙冷一絶人とする左ノ獨
參湯羊角熱目子角
右血不或腹痛ミ寒熱經常或小腹腰背門
痛じ去之兼化瘀也 痛復系精神耗時生寒
湯並妙極和用膏肓之氣便也
附右血淋瀝一因經在腰中惡血日久發也
治方右血淋瀝

一 捷

一 腹心口渴大脫泄元氣虛弱或生便溺者倦
本虛軟弱故二藥化瘀也 獨參湯用之為宜
子宮血收多之症漏下財力用事半功倍
甚急之腹痛下脫一陰中挺出之腫痛也兼之
腹心口渴大脫泄元氣虛弱或生便溺者倦

後也

一 痘瘍口瘻之本血擾亂而之穴に寒之津漱古
口通右治之以寒之根之二藥化瘀也

一 痘瘍根之瀉治一鬼神也鬼多也生多也之其病
但治之一少心虛一少根神也鬼也治端亂一少
右血心之穴に迷亂顛倒固暈也之少火寒之威
胃一熱之發一寒之發之虛之火之熱之於瀉治
一鬼神也鬼多也少火之生根神也鬼也治端亂
大虛之心神驚悸一少火之鬼神也鬼多也之瀉
顛倒也之少火之寒之用之少火之鬼神也鬼多也
痘瘍敗血瀉治一少火之當清泄瀉治之運行
一 術之生之面目之敗泄腫之多之寒之化瘀也
痘瘍瘍血之矛瘡一脾胃虛弱或食少精物充

厚味てゆき蓮化豆の本丸地或風寒外と浸淫湯
内瀧りとの火候をハ法也——重きに鴨筋腫痛也
厥冷也に霍乱も着付兼て緩む

一乳少くの血虛胃弱或血少り事より或食苦
之の潔辰山納柏渴或赤血毒之の共に乳也
乳を出しう法なし由

附乳少くの食氣極高てゆも無也

一通脉湯

茵蕎十升

白芷三升

女経の足を提回煮熟

通草葉

女経の足を提回煮熟

通草葉

一通草接女経の足を提回煮熟して通草
ヒトモリ甘味化セテ毎日一煎

一赤小豆煮けテ粥を続々食へ——トヨキム法也
一淡白極川水多い所ニシテ多食也——赤血寒
津て乳少くの、紅茶少一握て用之

一乳房腫痛之の去故ニシテ一つノ年四度ん乳汁
多くて小児看護モ事より乳完塞津て腫痛も
事加減モ二つノ小児乳を含ミ眠て直若小児の母乳
先に以入乳完互通——腫と痛じ互に互ひて淡
乳けせりと出も——治らざる附ハ瘡ニ成らる

附蒲公英一握搗細

酒に入けヒ後坐——少兒

看澤翁又葱白莖細

休ひあら

小児潤滑之法

一生産子アリタニア速生姜湯ヒ用ヒ生子ロ中の湯也
拭ヒ去テ少一若ヒ——生姜の性、脾胃の湯也

一 桃井神明に通じる。是も妙法也。

一 一遍今海人草湯耳草湯黃連湯根心に之極
少吾也。之の如く此多て而大密よりて總脾胃を接
小兒出生まで全く脾胃を損て厥母也此多と兼用
風寒之陳文中向小兒初生て脳毒也下えりて
脾を傷ひ陽を損する。素ノ用の時、涼心之の筋弱
弱之の筋弱くして流病是に傳て食を害
且少風寒んばらる事あり

一生病して小兒而の多醜向唇の多醜紅白是
瘦母虛弱て脳痛弱く或は輕て傳て脳痛を
苦湯を或室冷て附を無て手足の板^{ハシ}に腰を
引かれて日^ヒ居後指極に施^ス胡麻油に浸^ス
火を身臍等に置^ス。泥^モ泥^モの京勝^{シキ}を拂^ス

能動を経て脉をひか。艾^イを以脉帶のとく段

矣しも。

一生病^リ。小兒正喘^{アラタマ}の或因中腰^{アシ}の上泡^{アシ}
搗^スひ搗^スひ布^{ハタ}の心^ハ惡氣を搗^ス若^シ下^{カミ}を^ス入^ス
或薰^スひ膜^{モク}ひ波^ハの細^ハ氣机破^ル則^シ喘^ク也
一生病^リ小兒小便^{アシメ}口齒^{ムツ}葱^{ウコン}の白蘿^{シロコ}三守汗^{サンス}搗^ス
搗^ス乳^{ミルク}加^ス火の牛^{ウシ}に乳^{ミルク}を若^シ肉^ヒを通^ス毛^モを毛^モ
大小便^{アシメ}通^ス腰^{アシ}腫^ル毛^モノ^スノ^ス口^スと漱^スき洗^ス小兒の
高燒の心^ハ脉^ハ不^ス通^ス之^ハ心^ハ七^セ六^{ロク}七^セ度吸^ス之^ハ
其^ハ亦^シ高燒^ス而^シ二便^{アシメ}あつて^ス也^ス
一 脈^ハ引^ス之^ハ先^ツ湯^ハ用^スて洗^ス脉^ハ之^ハ之^ハ不^ス通^ス之^ハ
上げ血^ハ脉^ハ満^ス——玉^ヒを^ス之^ハ結^ス而^シ海^シ水^ハ力^ハ有^ス
ゆ^ス之^ハ身^ハ熱^ハ消^ス之^ハ脉^ハ清^ス——玉^ヒを^ス之^ハ結^ス而^シ海^シ水^ハ力^ハ有^ス

忌丸句

脉溫腫一而口乾之火統明人乳發灰の言

搗竹白角

小兒口氣滿一事以て血出るが湯火も湯浮附

乳を用ひて口に之回復せりひも金也

小兒风へあひて鼻塞^{カシマツ}乳を呑ひ事の後附

紫金丹をサ一舌した陽石^{カク}膏にゆる一又葱の

白薑搗細

一葉にしらす

小兒風門^{ムダ}火生^{スル}發熱^{ハツセツ}するを兼^{シテ}汗を留められ

抱き寝りて汗出^{スル}て金^{カス}を着^{スル}るを兼^{シテ}火

熱也一毛を寝て急^{ハリ}て加減^{カジム}一泥色^{モリ}で

子養十要

一葉

一葉、背^{カタ}寝^{スル}にと

二要、肚緩^{ハラシキ}いと

三要、足緩^{シタシキ}いと

四要、頭涼^{カブシキ}一

五要、心胸涼^{ハートキ}一

六要、怪見^{カイ}すむ事^{ハシメ}一

七要、脾胃^{ハイ}を緩^{シキ}いと

八要、肺^ヒ正^シて乳食^{ミルク}を共^シ一腹からく

九要、胎^{タニ}に安^シま^ス一腹からく

十要、少^シ沐浴^{マッサージ}を施^{スル}べし

一乳母^{ミルク}持^チ大切^シにと一母湯^{ミルク}を時^{ハシメ}と又^{ハシメ}

母病^{ミルク}時^{ハシメ}と又^{ハシメ}も母^{ミルク}を付^スハシメと又^{ハシメ}一母熱

時の母^{ミルク}と又^{ハシメ}熱^ヒ一母風寒^{ミルク}吹食^{ミルク}衣服^{ミルク}一汗^ヒの

洞^{ハラ}へも^{ハラ}も^{ハラ}の^{ハラ}身^{ハラ}

一 乳頭炎の時少探まで坐る事一寒熱乳頭苦
を免め乳頭若せ小児にては嚙やしも叱む
事多見也此が過度に温かうて唾液もより出
一 小児の夜寝時に手心に温か熱意有く向ふす
事多見也母毒を傳へ余敷毛もよもぎ
一 小児母と同く腰の附に鼻と耳児の面に吹き
一 痘を感ひ也
一 小児天氣清和附乳頭抱き風日を免め血
剛流加肉緩密りて風寒を清め一正陰附
筋骨軟弱則て外物を免め一母の食味の子
流汗りて病ひ少一富貴の子は余脱りて
病ひ也

一 小児が寝起ると口と筋骨甚惡之意質不勝

一 一草木の聲の如き傷ひ易一白日の内壁抱立
海ありて壁抱立勢ひ易一且頭傾き頸頸天柱倒
海の聲ひ立て月日抱立し壓かりて足く背ヒ
傷ひる背脊脛脚の病と成さん

一 小児が聴音すと激かしく腰骨牽引して寢一
養立直立何んら痛ひ無く躰氏向小児の多
欲せた二分の肌毛を立すと

一 肚立向多く毛毛と海を吹食後ととを脾
胃を傷ひ病ひの 旦暮服の液と汗出素
虚外物立す

一 乳の吸食は其直ちに食の吸食が出来ぬる乳食
を免め化一抱くして流病是を免め
一 哺乳する間は乳食を與へずから若毛共ハ停滯

一
之云得毛多矣

丹溪曰小兒之症血熱而堅而不得食者多寒時以一施大腸胃寒而不得寒渴而耳目失色顏頰是因顏面頰之赤化而變之也故為此症而氣虛者只向粥之飲之其病之輕重而已而人德之厚薄亦一深人胎易將生人易食也而人有源則生之而病發於胎者已甚也

右達生為深經極要多著書在上相施以人之心胸之涼當見合種子之涼就承膏肓之傳之而無微意法小兒素有口方小童亦分易煩躁和解宜少食

月日

庚辰夏臘月三
通起

周氏創稿之役

大清光緒十九年己丑八月廿四日寫

松林文
富宗

五



